D部門論文委員会意見交換会

2025年8月21日（木）

12時10分～12時50分

徳島大学 常三島キャンパス 共通講義棟 3F K302

電気学会産業応用部門論文委員会

1　議事次第

1. 論文委員会の体制紹介・編修長・英文編修長あいさつ

熱海和文誌編修長・藤本英文誌編修長

2. 最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の活動について

3. 査読マニュアルについて　熱海和文誌編修長

4. 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況について

および戦略委員会の活動報告　熱海和文誌編修長・藤本英文誌編修長

5. 論文委員意見に対する回答　熱海和文誌編修長・藤本英文誌編修長

西村 Ｄ４主査

6. 意見交換　（12:50終了）

編修長 あいさつ

産業応用部門 和文論文誌 編修長
熱海 武憲 （千葉工業大学）

英文論文誌 編修長
藤本 康孝 （横浜国立大学）

最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の活動について

産業応用部門 和文論文誌 編修長
熱海 武憲　（千葉工業大学）
英文論文誌 編修長
藤本 康孝　（横浜国立大学）

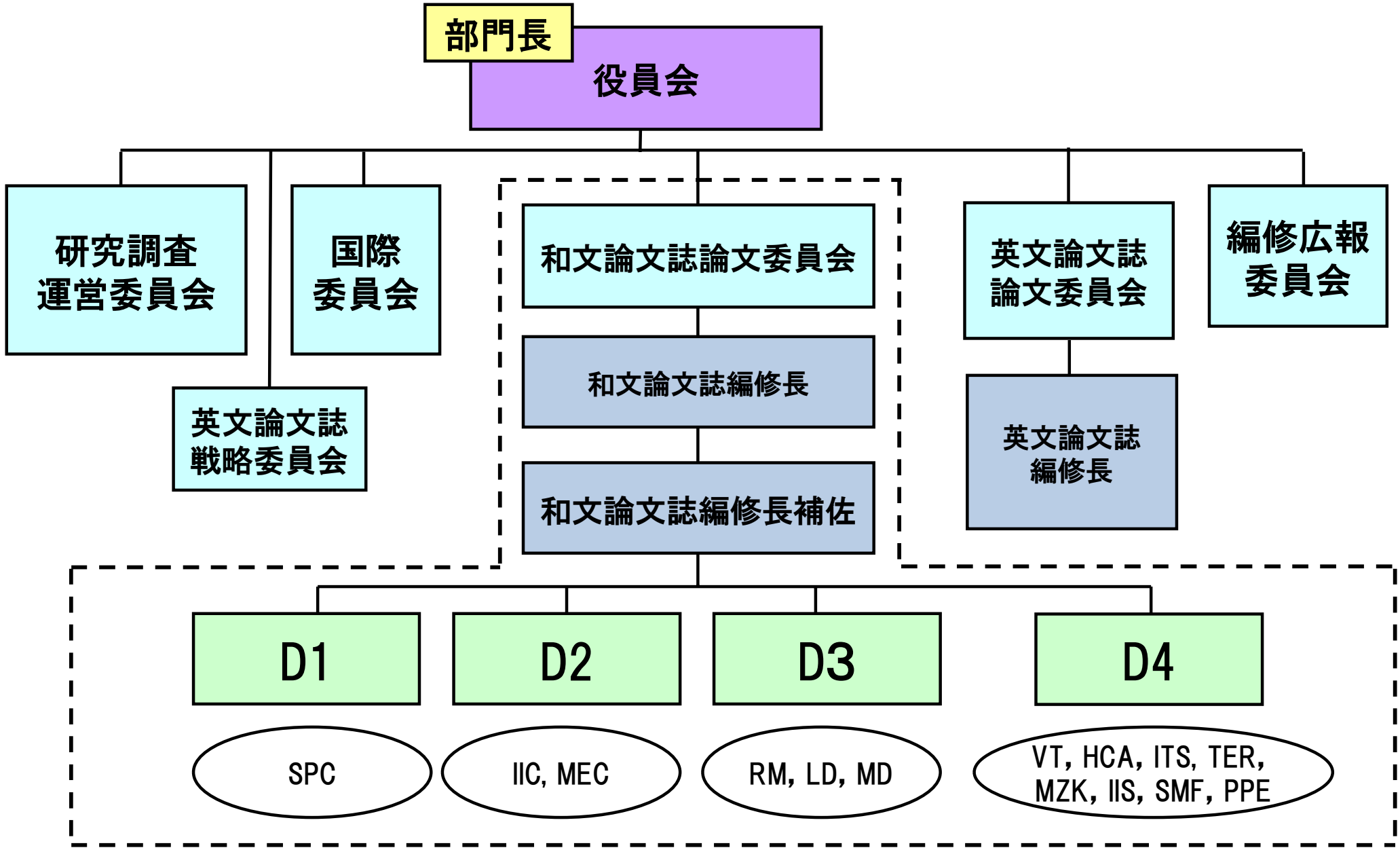
最近の試み

★ねらい

- 新査読システムへの移行
- D部門としてのグローバル化
- 国際的な情報発信の促進
- 英文論文誌のクオリティ向上
  (IF向上に向けた施策)

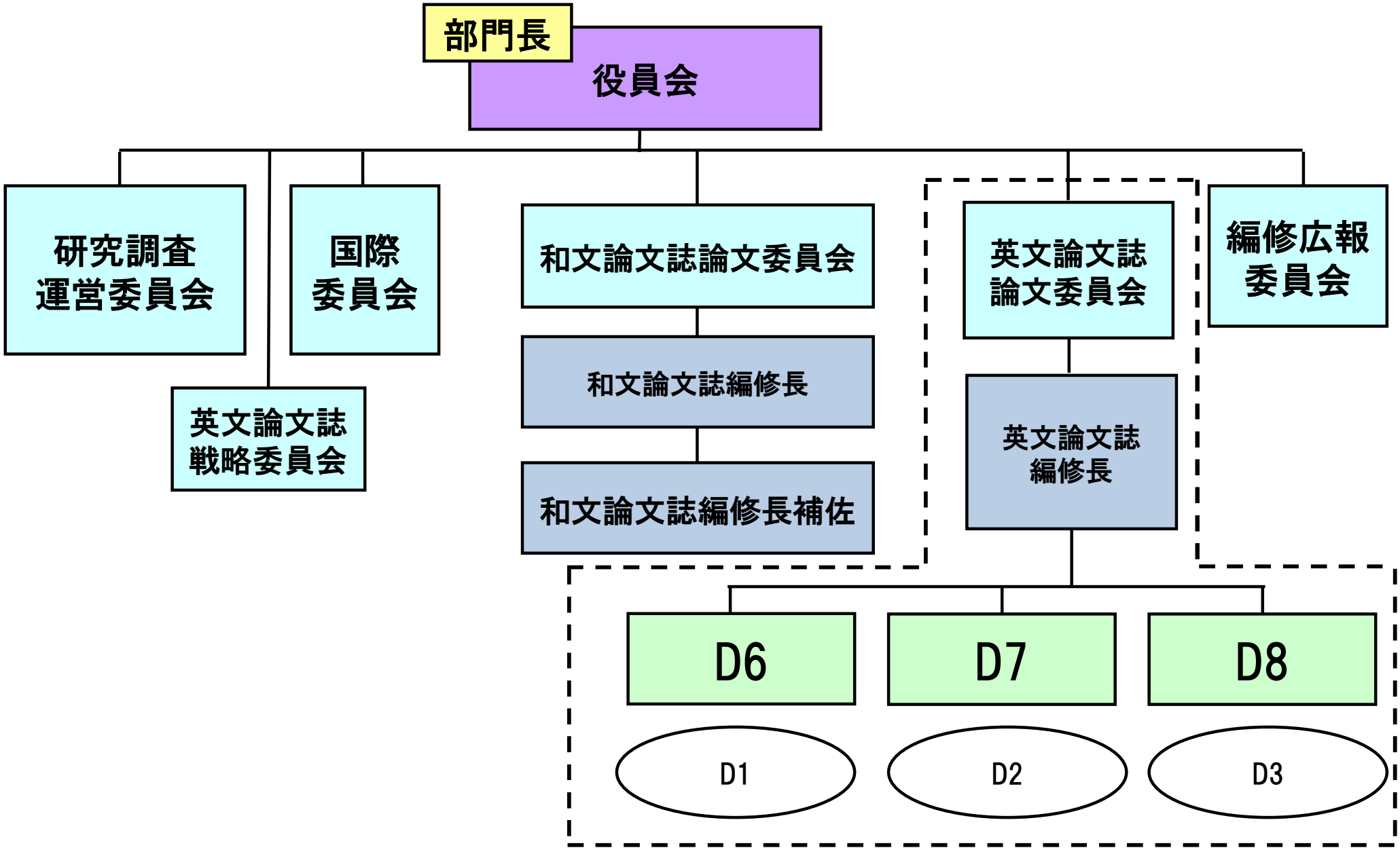
・「英文論文誌戦略委員会」で各種対策を実施
　ESCIでのJIF取得 (2023.6.28)
・ジャーナルインパクトファクタ取得後のIF向上対策
　クラリベイトアナリティクスを通じた広報
　雑誌Natureでの広報

5　D部門における論文委員会（和文論文誌）

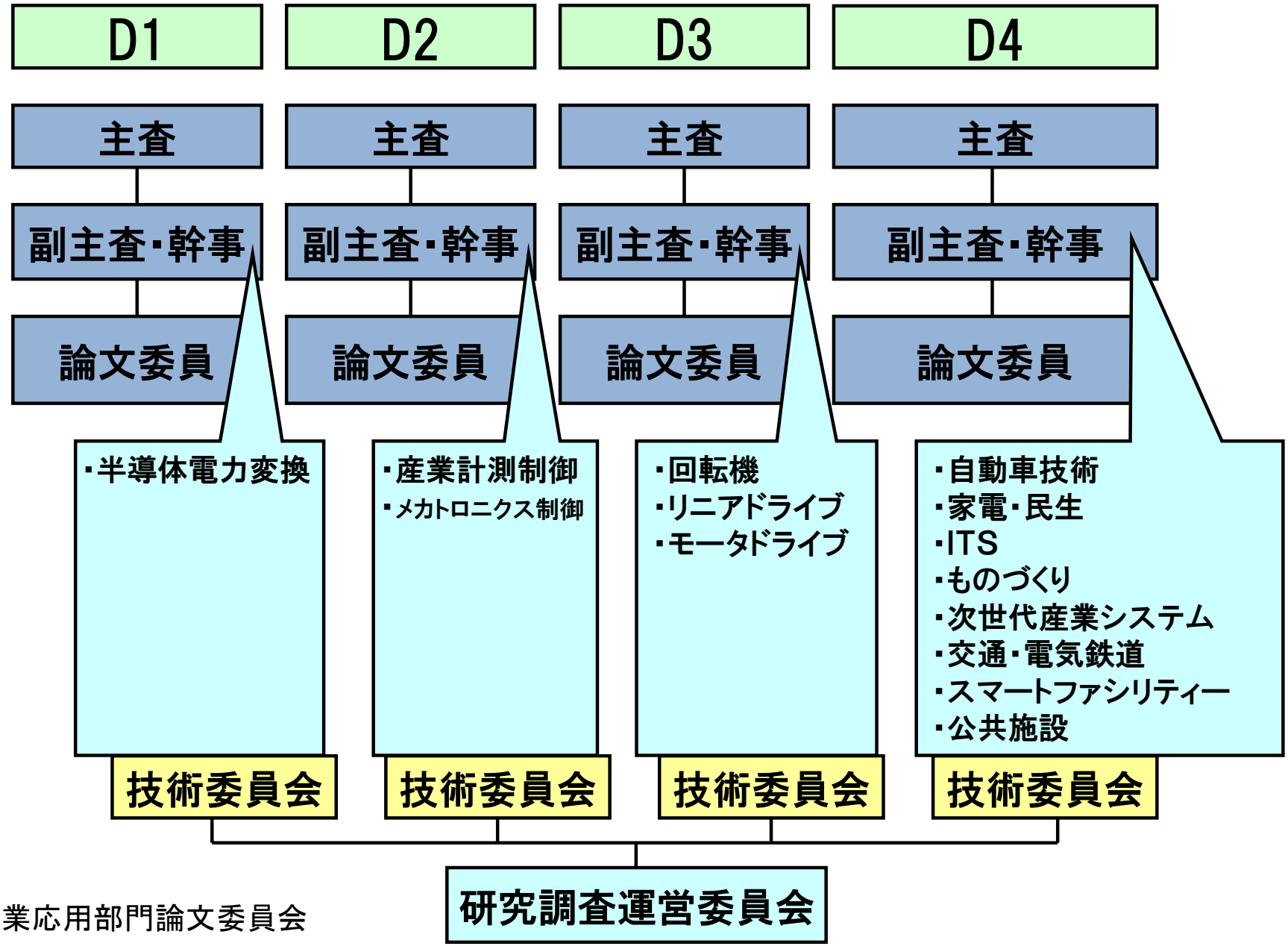


電気学会産業応用部門論文委員会

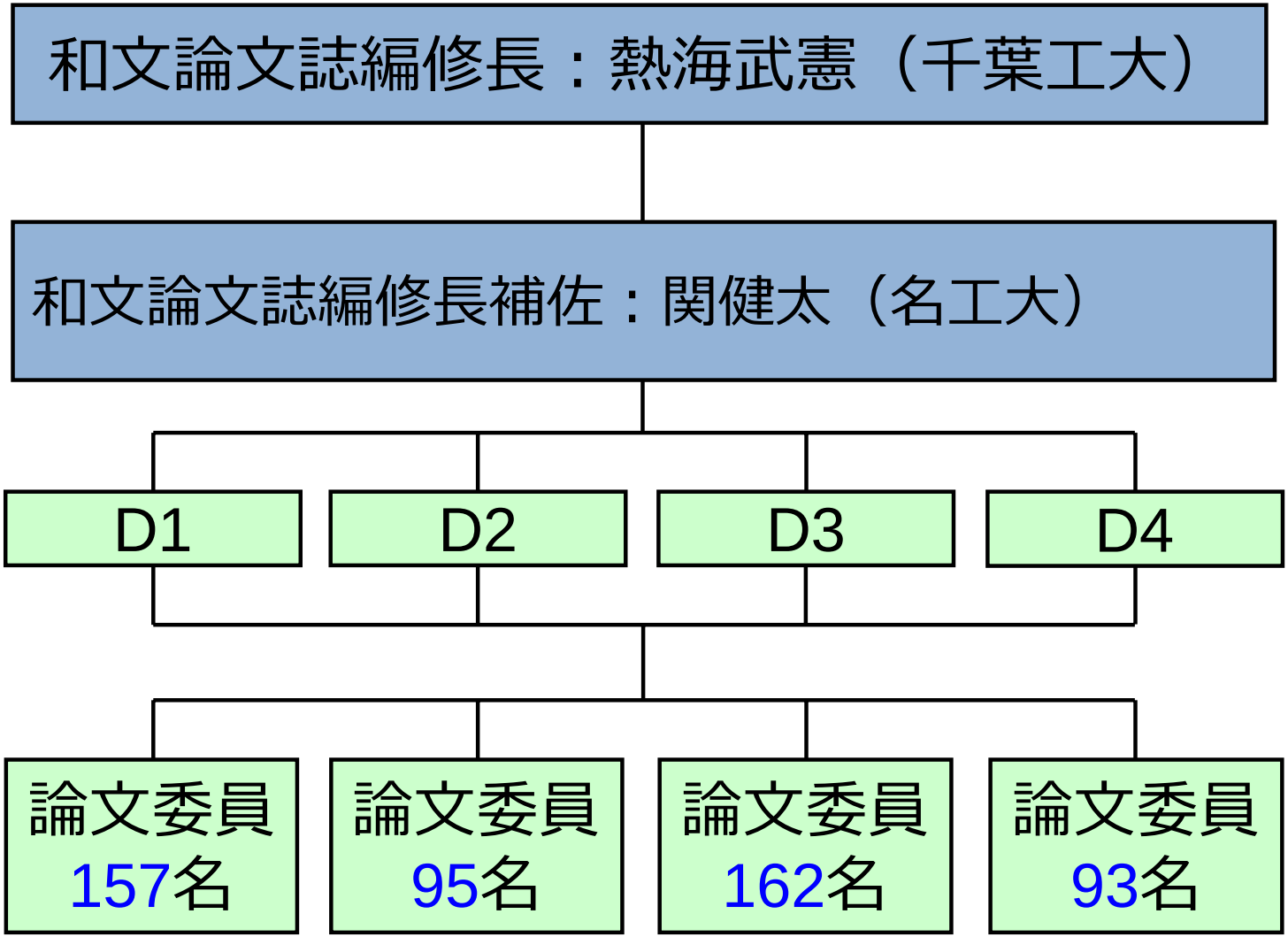
6　D部門における論文委員会（英文論文誌）



和文論文誌論文委員会の組織



和文論文誌論文委員会の構成



2025年度和文論文誌論文委員会幹事等

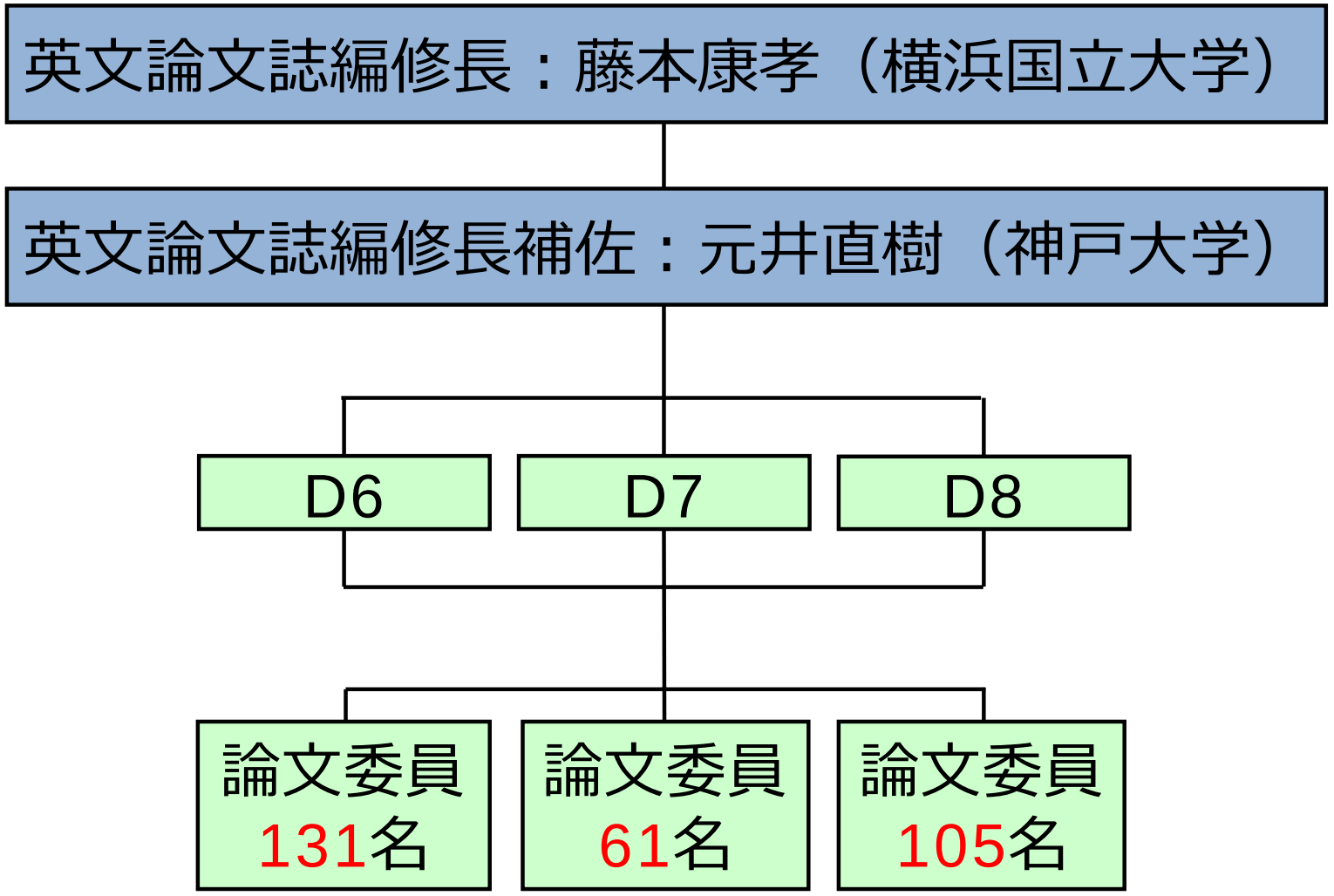
	役職	氏名	所属
D1	主　査	長谷川　一徳	九州工業大学
	副主査	萩原 誠	北海道大学
	幹　事	新井 卓郎	(株)東芝
	〃	加藤 康司	(株)GSユアサ
	〃	山田 洋明	山口大学

	役職	氏名	所属
D2	主　査	吉浦　泰史	(株)安川電機
	副主査	大屋　英稔	東京都市大学
	幹　事	竹内　一生	(株)トーショー
	〃	大場 譲	仙台高等専門学校

	役職	氏名	所属
D3	主　査	中村　健二	東北大学
	副主査	井上　征則	大阪公立大学
	幹　事	木村 守	(株)日立産機システム
	〃	上野 哲	立命館大学
	〃	浅野　能成	ダイキン工業(株)
	〃	佐藤 光秀	信州大学
	〃	大道 哲二	長崎大学
	〃	清田 恭平	東京科学大学

	役職	氏名	所属
D4	主　査	西村　和則	名古屋大学
	副主査	井上　馨	同志社大学
	幹　事	横川　勝也	(株)東芝
	〃	岩岡 浩一郎	金沢学院大学
	〃	渡邉　翔一郎	東京電機大学
	〃	安里　健太郎	沖縄工業高等専門学校
	〃	笹山 瑛由	九州大学
	〃	清水 修	東京大学
	〃	中村 勇太	名古屋工業大学

英文論文誌論文委員会の構成



11　2025年度 英文論文誌論文委員会幹事等

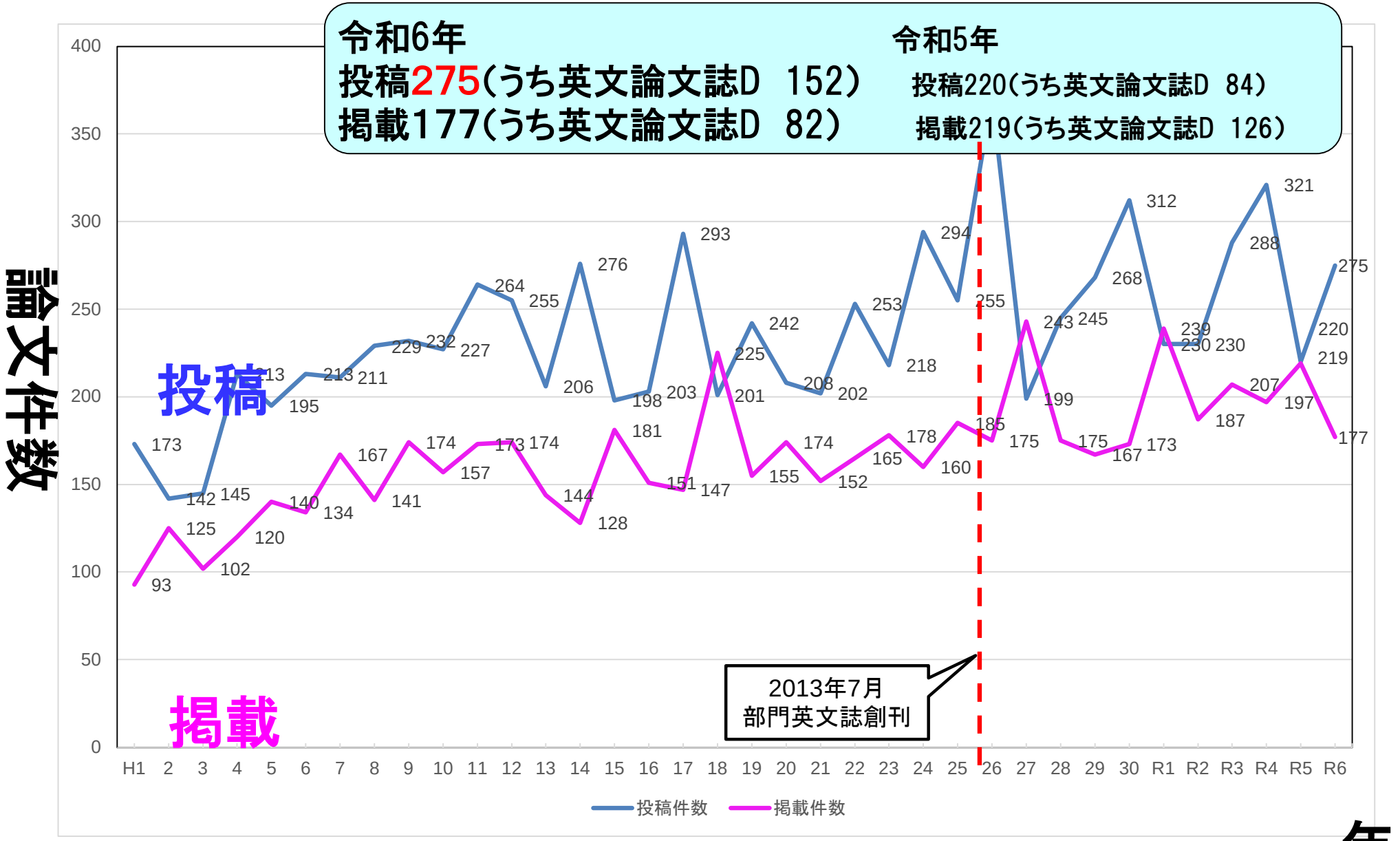
編修長	藤本康孝	横浜国立大学
編修長補佐	元井直樹	神戸大学

	役職	氏名	所属
D6	主査	和田圭二	東京都立大学
	副主査	名取賢二	千葉大学
	幹事	小原秀嶺	横浜国立大学
	幹事	梅谷和弘	九州大学
	幹事	磯部高範	筑波大学
	幹事	前川佐理	明治大学

	役職	氏名	所属
D7	主査	石川　潤	東京電機大学
	副主査	藤本康孝	横浜国立大学
	幹事	元井直樹	神戸大学
	幹事	下野誠通	横浜国立大学
	幹事	伊藤和晃	岐阜大学
	幹事	道木加絵	愛知工業大学
	幹事	藪井将太	東京都市大学

	役職	氏名	所属
D8	主査	小坂　卓	名古屋工業大学
	副主査	近藤圭一郎	早稲田大学
	幹事	朝間淳一	静岡大学
	幹事	山本　修	職業能力開発総合大学校
	幹事	深山義浩	三菱電機(株)
	幹事	宮島孝幸	ダイキン工業(株)
	幹事	杉元紘也	東京電機大学
	幹事	隅田悟士	(株)日立製作所

D部門　論文投稿・掲載件数の推移



電気学会産業応用部門論文委員会

13　和文特集号の企画数と総投稿数

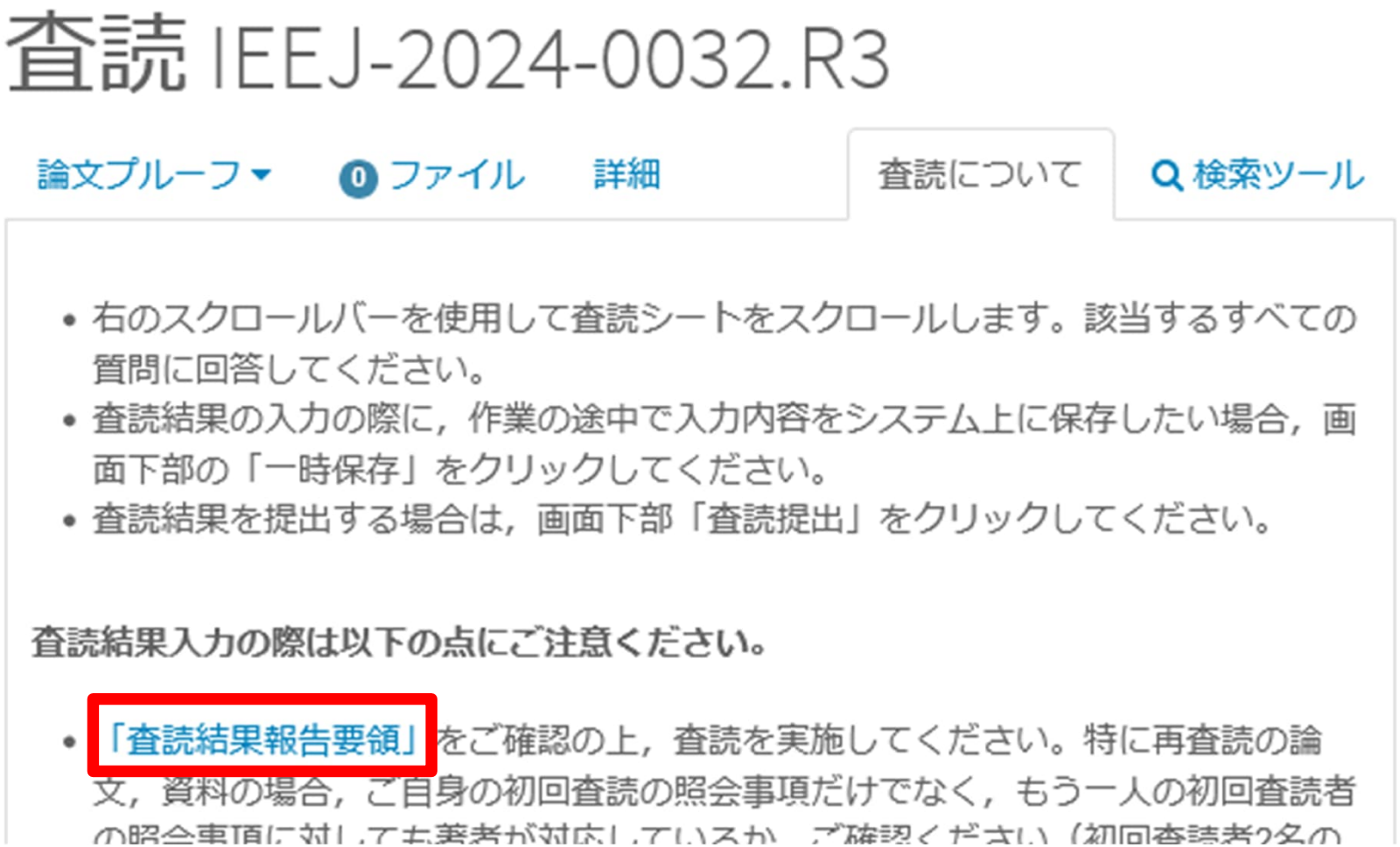
年	企画数	投稿数
2025年	3	87【08/13時点】
2024年	3	129
2023年	1	144
2022年	6	172
2021年	4	179
2020年	2	229
2019年	7	239
2018年	4	312
2017年	4	268
2016年	3	245

ScholarOne Manuscriptへ査読システム移行 (1)

- これまでの査読システムは，電気学会独自のシステムを構築し，電気学会内のサーバにて運用していた.
- そのため，クラウド化には対応困難となっており，火災等の被害が発生した場合，貴重な投稿論文データが失われる状況にあった.
- 電気学会でのタスクフォースで検討した結果，ScholarOne Manuscriptへの移行が最適との結論となった

15 ScholarOne Manuscriptへ査読システム移行（2）

査読マニュアルは「査読結果報告要領」をご確認ください.



ScholarOne Manuscriptへ査読システム移行（３）

過去の査読者のうち、論文委員を務められている方については、旧査読システムからS1Mへのデータ移行を行っております。

一方で、論文委員でない査読者の方に関しては、データの移行は行っておりません。そのため、該当する方の情報は旧システムにて検索いただく必要がございます。

D部門英文論文誌 (JIA)

- グローバル化⇒D部門の高度な技術を世界へ。情報発信は英語で！
  （共通英文論文誌：scopeが広すぎる）
- IEEE (IEEE Xplore) との差別化

①電気学会の査読基準（有用性、オリジナリティ、新規性）、
②きめ細かい査読プロセス　③有用性のある論文を掲載する

現状：Free Access. 海外著者は投稿料実質無料

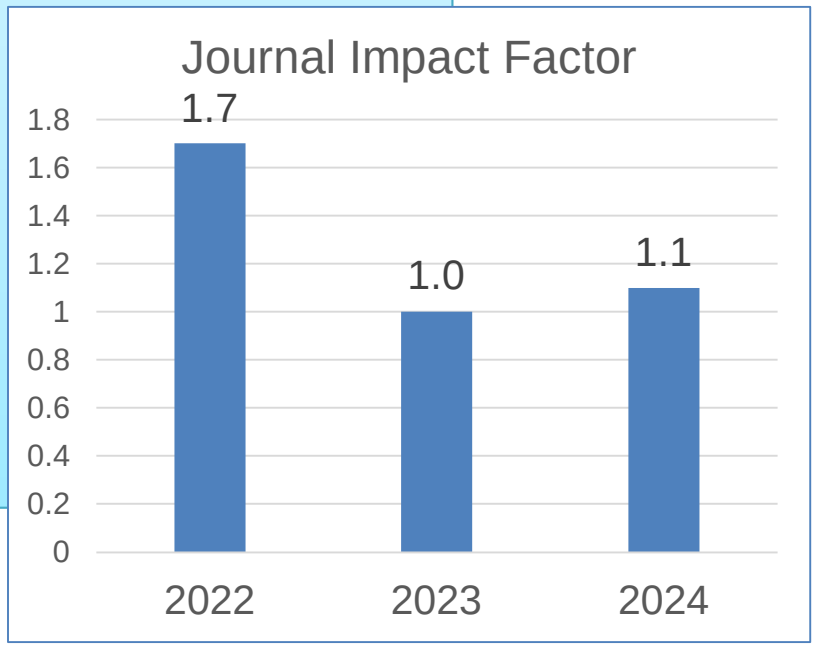
一流論文誌として認められる（海外から読まれる論文誌）となるために：

Web of ScienceのSCI登録（インパクトファクター）を
目指していましたが、2023年6月に取得できました
(Journal Impact Factor, JIF)

- SCIE (Science Citation Index Expand)
  - Clarivate Analytics社(クラリベイトアナリティクス社）
  - （2016年Thomson Reuter社から分離）の学術雑誌データベース
- サイテーション・インデックス（引用索引）による論文誌評価

これまでの英文論文誌戦略委員会でのタスク
（委員長：横山智紀（東京電機大学））

- JIA論文引用の促進
- Early access の実現(2020/10~)
- 著名研究者の招待論文の促進
- 国際共著論文の促進
- 日本開催の国際会議論文をJIAへ誘導
- 査読促進賞（定常運用）(査読期間短縮)
- JIA Cool Japan論文シリーズの開始
- JIA Finderの運用開始
- クラリベイト社による広報メール発信
- インパクトファクター値を上げていく努力が必要
- 戦略委員会　から　JIF向上委員会へ
- 次の目標　JIF=2.0以上を目指します．
  さらにQ1を目指して！



みなさまのご協力が必要です

インパクトファクターとは

- SCIEに登録された雑誌で、評価する年の前の2年間に参考文献として引用された数値の平均値
- 2024年のインパクトファクター例

(A)＝2022年、2023年に雑誌Pに掲載された論文※が2024年中に引用された回数

(B)＝2022年、2023年に雑誌Pが掲載した論文数

雑誌Pの2024年のインパクトファクター＝A／B

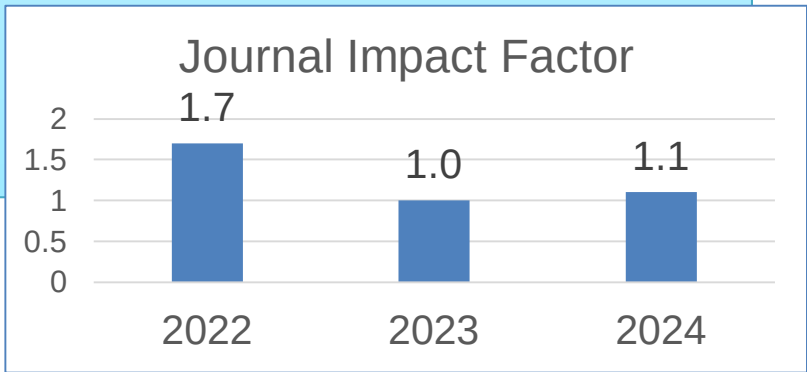
※掲載年月日＝早期公開の年月日

JIAプレゼンス向上に向けたお願い

- D部門では、主催する国際会議の特集号の有無によって投稿数が大きく変動する（IPECとICEMSがあるため、隔年で投稿数が大幅に増える）
  JIFの計算式では分母が大きくなるため、引用数も増やさないとJIFは下がってしまう
- 2023年はIPECの特集号が増えた分を上回る引用数が得られなかったため、JIFが下がった．また、コロナ禍で国際会議の参加者数が減少したことも影響している
- 2年間の論文掲載数は約200件であり、JIF=1.0ということは、JIAの論文の2年間の総引用数が200件であることを意味する．JIAの論文同士の引用もカウントされるので、JIAの論文1編につきJIA論文の引用が1件あれば、JIF=1.0となる
- つまり、現状では引用数がまだ十分ではないといえる

➢ D部門会員の皆様には、国際会議論文やJIA論文の執筆の際に、2023年、2024年、2025年のJIA論文の引用をお願いします．それだけでJIF=2.0は十分に実現可能です（IPEC, ECCE, ICEMS, IECON, APEC, AMC, ICM, SPEC, その他IEEE関連会議）

➢ JIFが上がれば海外からの引用も増え、ポジティブスパイラルに入ることを期待しています



奇数月１５日に配信される電気学会D部門メールマガジン

★★ 電気学会D部門英文論文誌の引用文献用データの御案内（2025.7.15）★★

○○　○○　様

産業応用部門　英文論文誌論文委員会　編修長　藤本康孝

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

情報提供：一般社団法人電気学会

※本メールは電気学会会員（産業応用部門にご所属）でメールアドレスを
　ご登録いただいている皆様にお送りしております。

　電気学会D部門英文論文誌(IEEJ Journal of Industry Applications, JIA)において2023年から2025年に発行された論文を以下にご紹介します。IEEE論文誌や国際会議など、Web of Scienceに収録されている学術誌や国際会議に投稿される際の参考文献として、ぜひご活用ください。なお、電気学会D部門英文論文誌(IEEJ Journal of Industry Applications)は、以下のリンクよりどなたでもアクセス可能で、ID・パスワード不要でフリーダウンロードいただけます。

##
リストは、新規分・従来分を分野別に分類して掲載しています。
また、論文の分類ワードおよび各論文のKeywordsも記載しており、
関連論文を見つけやすくなっております。ぜひご参照ください。
##

JIA閲覧トップページ
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ieejjia

######## New Coming: (Vol.14, No.4) ########

##
[D6: Power Electronics and Its Applications]

[Design and Control Methods for Electric Vehicle Charging in Wireless Power Transfer Topologies]
Jalaj Kumar, Ritesh Gupta, Avanish Pandey, Suvendu Samanta, and Akshay Kumar Rathore, "Design and Control Methods for Electric Vehicle Charging in Wireless Power Transfer Topologies", IEEJ Journal of Industry Applications, Volume 14, Issue 4, pp. 509--522, 2025.
[Keywords: wireless power transfer (WPT), constant current (CC), constant voltage (CV), constant power (CP)]

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejjia/14/4/14_24010874/_pdf/-char/en

↓　以後、同じように、文献が続く。

この情報から、ご自身の論文の引用に適した論文の検索をお願いします（指導学生にも共有をお願いします）

論文の引用には、このままコピー＆ペーストでOK

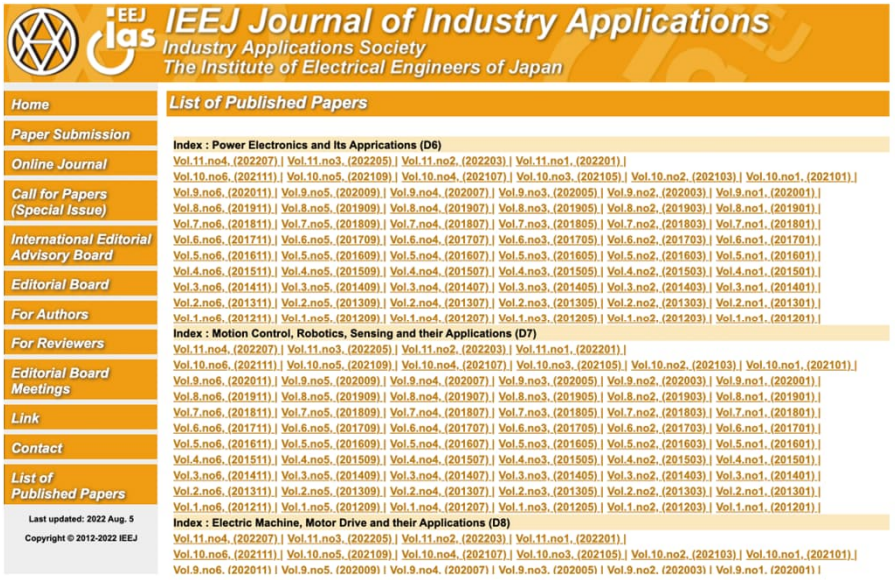
これから執筆する論文には、2025, 2024, 2023年のJIA論文の引用をお願いします

JIAのホームページ

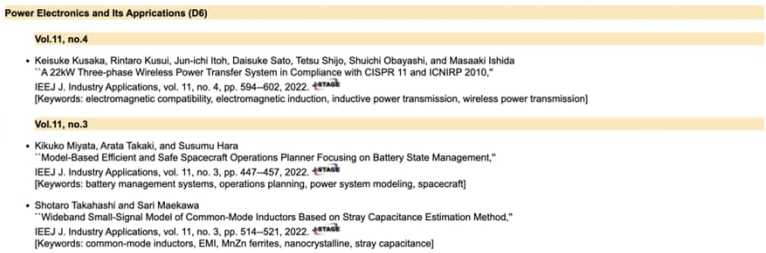
JIA FINDERでキーワード、著者検索可能です

利用をよろしくお願いします

全論文リスト（新しいもの順）



インパクトファクターの計算には
過去二年の論文の引用が必要
それ以前の論文引用はカウントされません
過去二年の論文を中心に引用をお願いします



Topic

Cool Japan ~ JIA's feature article on Japanese cutting-edge technology.

Online version

IEEJ Journal of Industry Applications
Industry Applications Society
The Institute of Electrical Engineers of Japan

Dear Dr. Urata,

It is our pleasure to inform you that following inspiring and foresighted research paper from IEEJ Journal of Industry Applications has been published.
We have sent to you this email because you are an author of the article indexed in Web of Science and believe this research may be of your interest.

Cool Japan ~ JIA's feature article on Japanese cutting-edge technology.

Author: Kenji Sato, Hirokazu Kato, Takafumi Fukushima

"Outstanding Technical Features of Traction System in N700S Shinkansen New Generation Standardized High Speed Train"

This paper presents a novel traction system silicon carbide (SiC)-applied and lithium-ion battery equipped for a world top class Shinkansen N700S train.

DOI: 10.1541/ieejjia.20012560

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejjia/10/4/10_20012560/_article/-char/en

Author: Kantaro Yoshimoto, Tomoyuki Hanyu

"NISSAN e-POWER: 100% Electric Drive and Its Powertrain Control"

This paper presents a novel traction system silicon carbide (SiC)-applied and Â lithium-ion battery equipped for a world top class Shinkansen N700S train.

DOI: 10.1541/ieejjia.20013024

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejjia/10/4/10_20013024/_article/-char/en

Author: Masaki Okamura,

"The Evolution of Electric Components in Prius"

This paper presents the technology for the evolution of a hybrid electric traction system for Toyota launched the first massproduced hybrid electric vehicle, the Prius.

DOI: 10.1541/ieejjia.21007126

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejjia/advpub/0/advpub_21007126/_ar

JIA Finderのページ：
Most viewed articles
Recommended articles

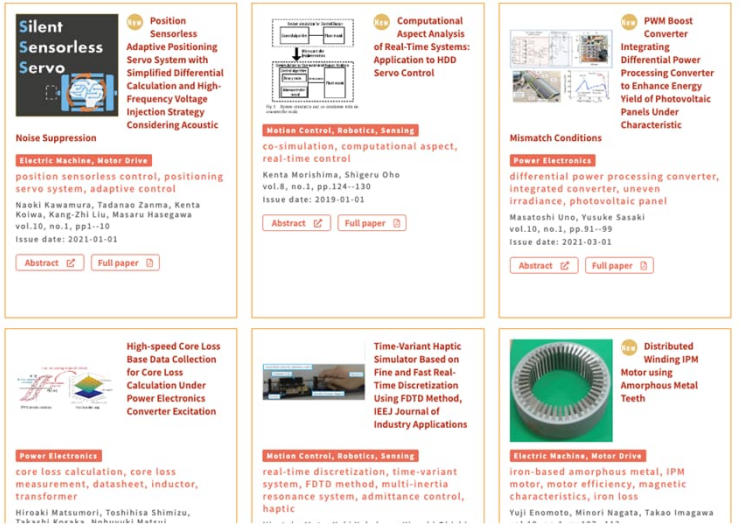
JIA Most Viewed Articles

1 Contact Force Estimation and Sensorless Force Control in Piezoelectric Bending Actuators
Issue date:

2 A 22kW Three-phase Wireless Power Transfer System in Compliance with CISPR 11 and ICNIRP 2010
Issue date:

3 Outstanding Technical Features of Traction System in N700S Shinkansen New Generation Standardized High Speed Train
Issue date:

Recommended Articles



再度の引用のお願い

JIA投稿論文、国際会議論文作成の際、

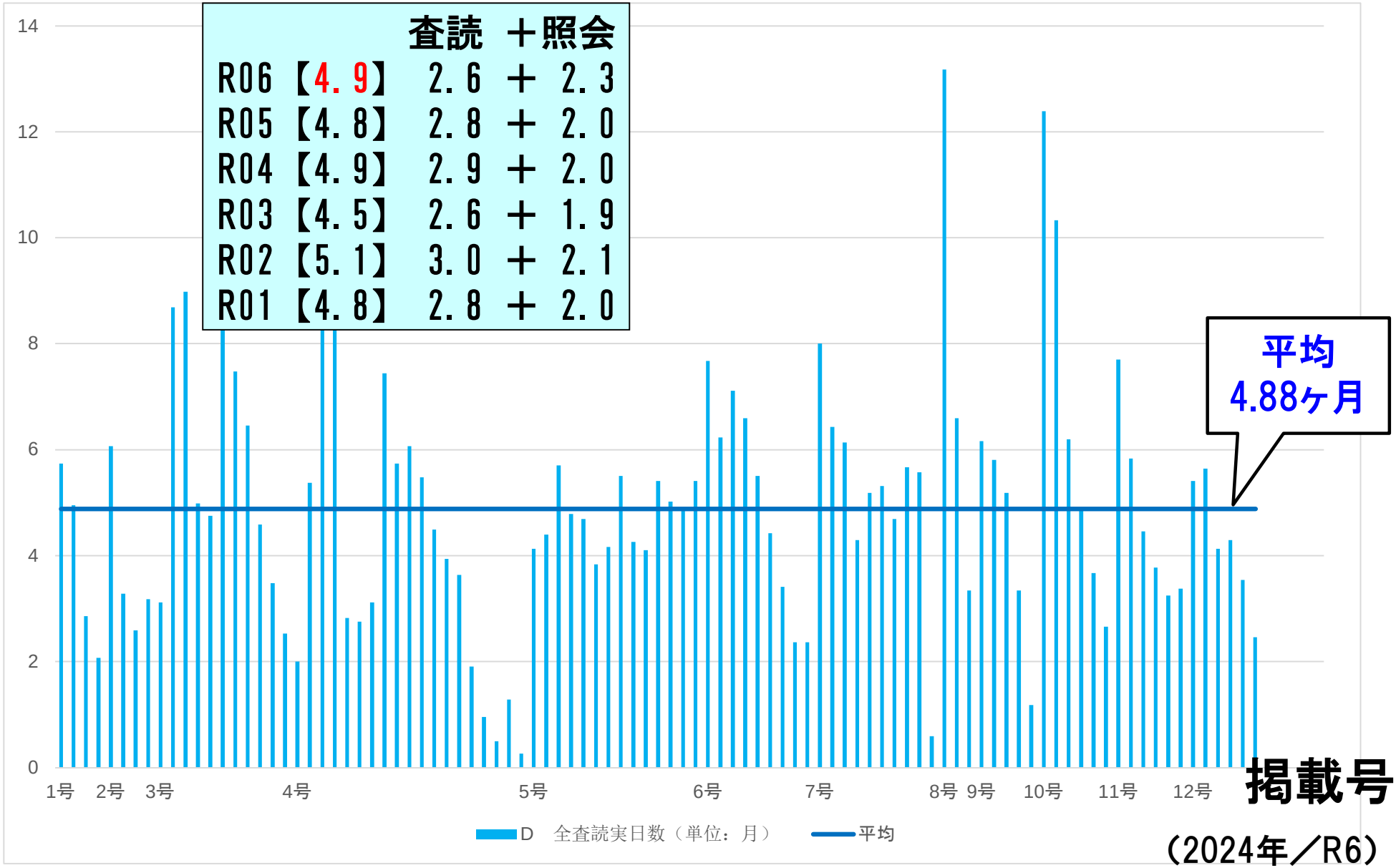
- ダイジェストバージョン、推敲バージョンから、引用論文にJIA論文を含めていただきますようお願いします（2025年、2024年、2023年のJIA論文）
- 大学院生へのご指導をよろしくお願いします

JIA論文査読時に、論文幹事より引用推奨論文を提示する運用を開始しております

引き続き、よろしくお願いします

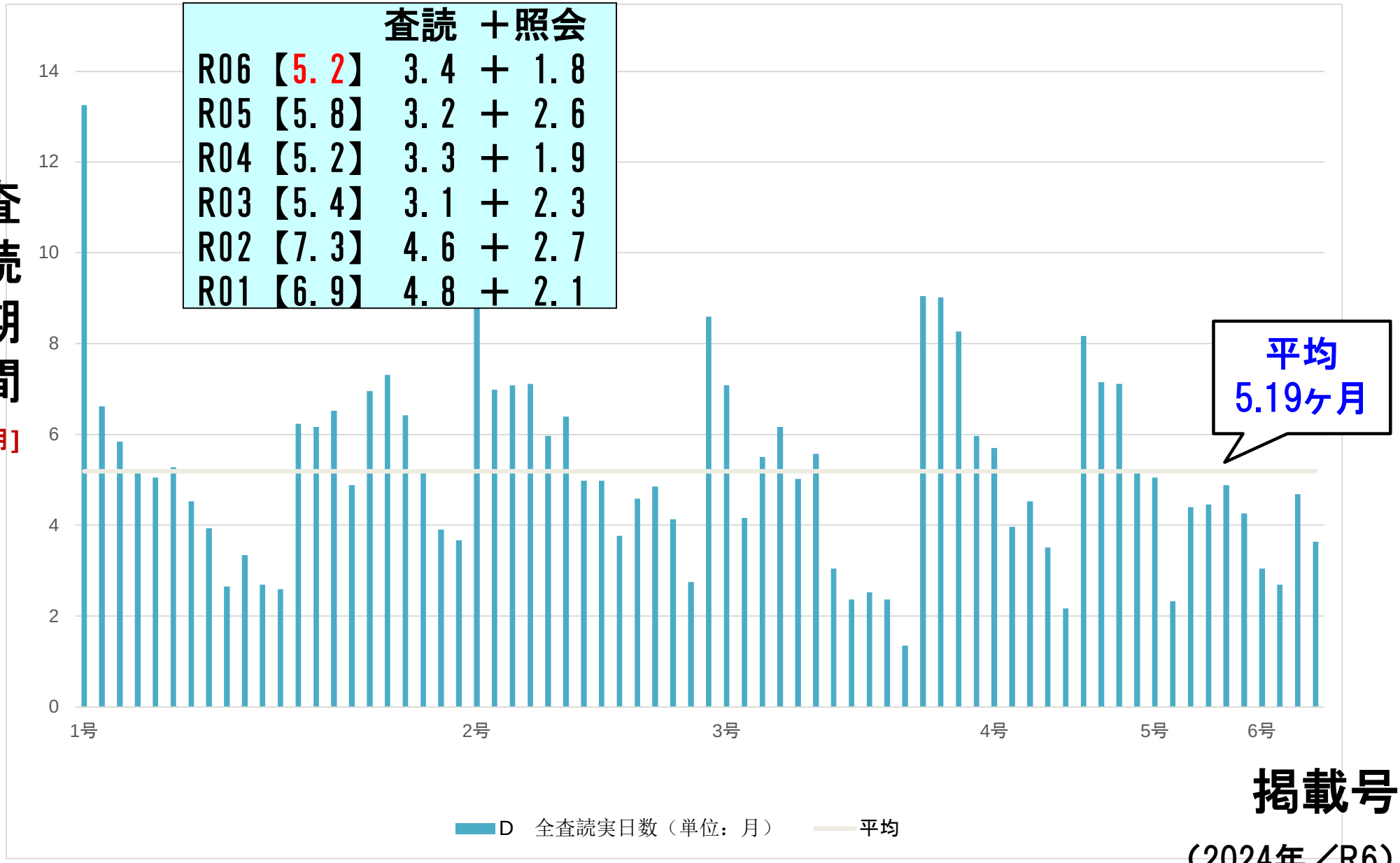
和文論文誌D（論文）
論文掲載判定までの所要月数

	査読	＋照会
R06【4.9】	2.6	＋ 2.3
R05【4.8】	2.8	＋ 2.0
R04【4.9】	2.9	＋ 2.0
R03【4.5】	2.6	＋ 1.9
R02【5.1】	3.0	＋ 2.1
R01【4.8】	2.8	＋ 2.0



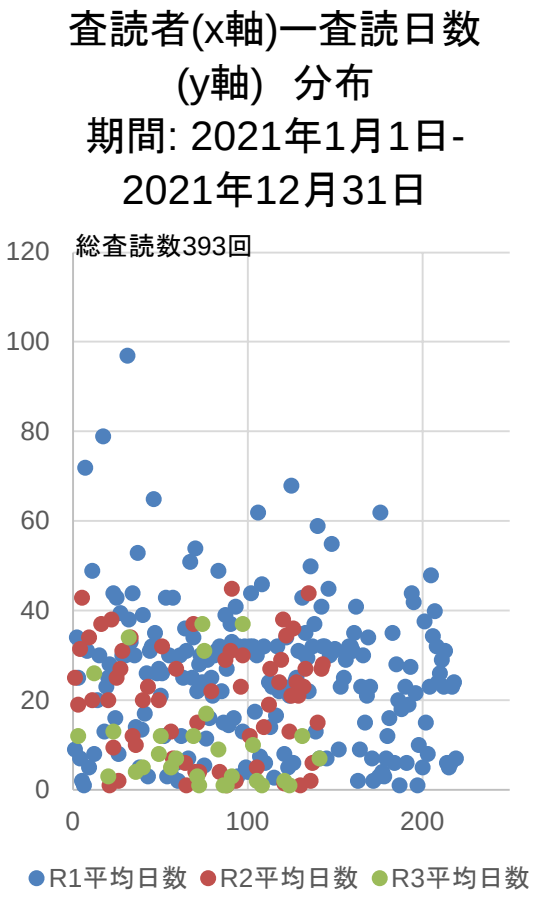
英文論文誌D（論文）
論文掲載判定までの所要月数

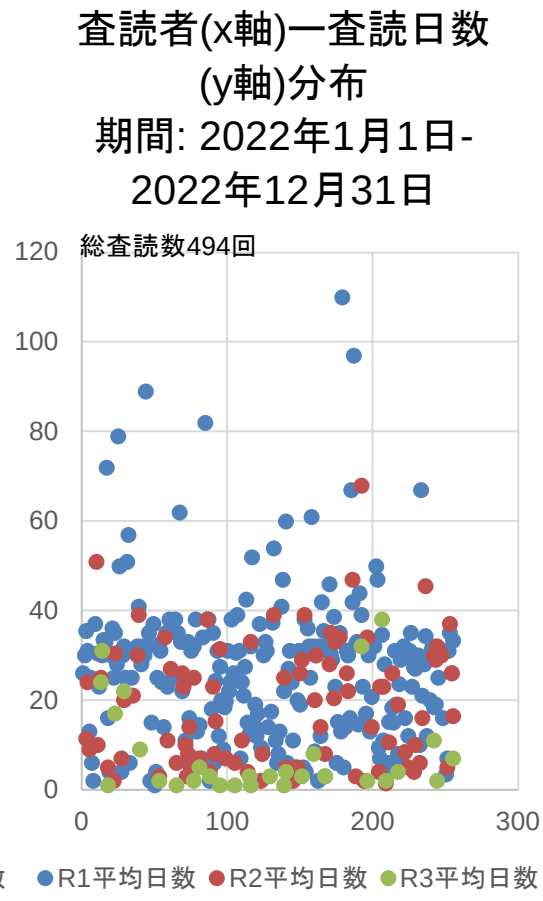
	査読	＋照会
R06【5.2】	3.4	＋ 1.8
R05【5.8】	3.2	＋ 2.6
R04【5.2】	3.3	＋ 1.9
R03【5.4】	3.1	＋ 2.3
R02【7.3】	4.6	＋ 2.7
R01【6.9】	4.8	＋ 2.1

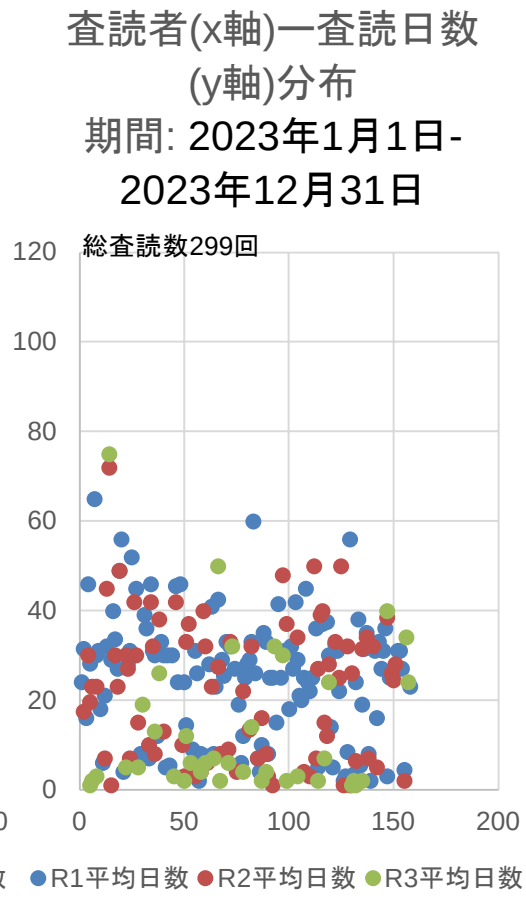


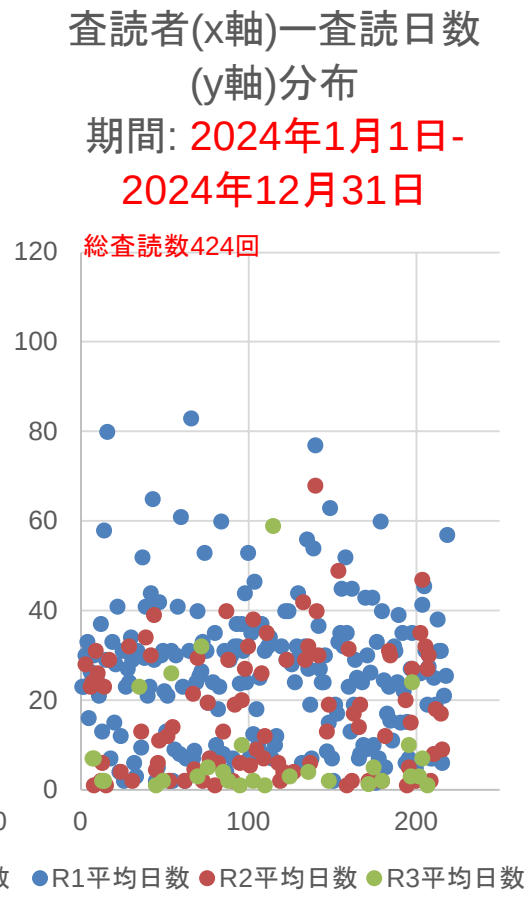
電気学会産業応用部門論文委員会

査読日数分布

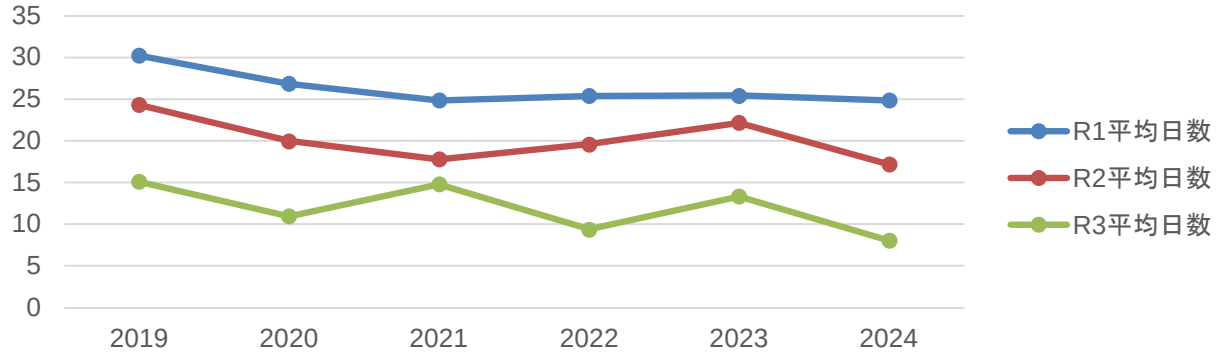








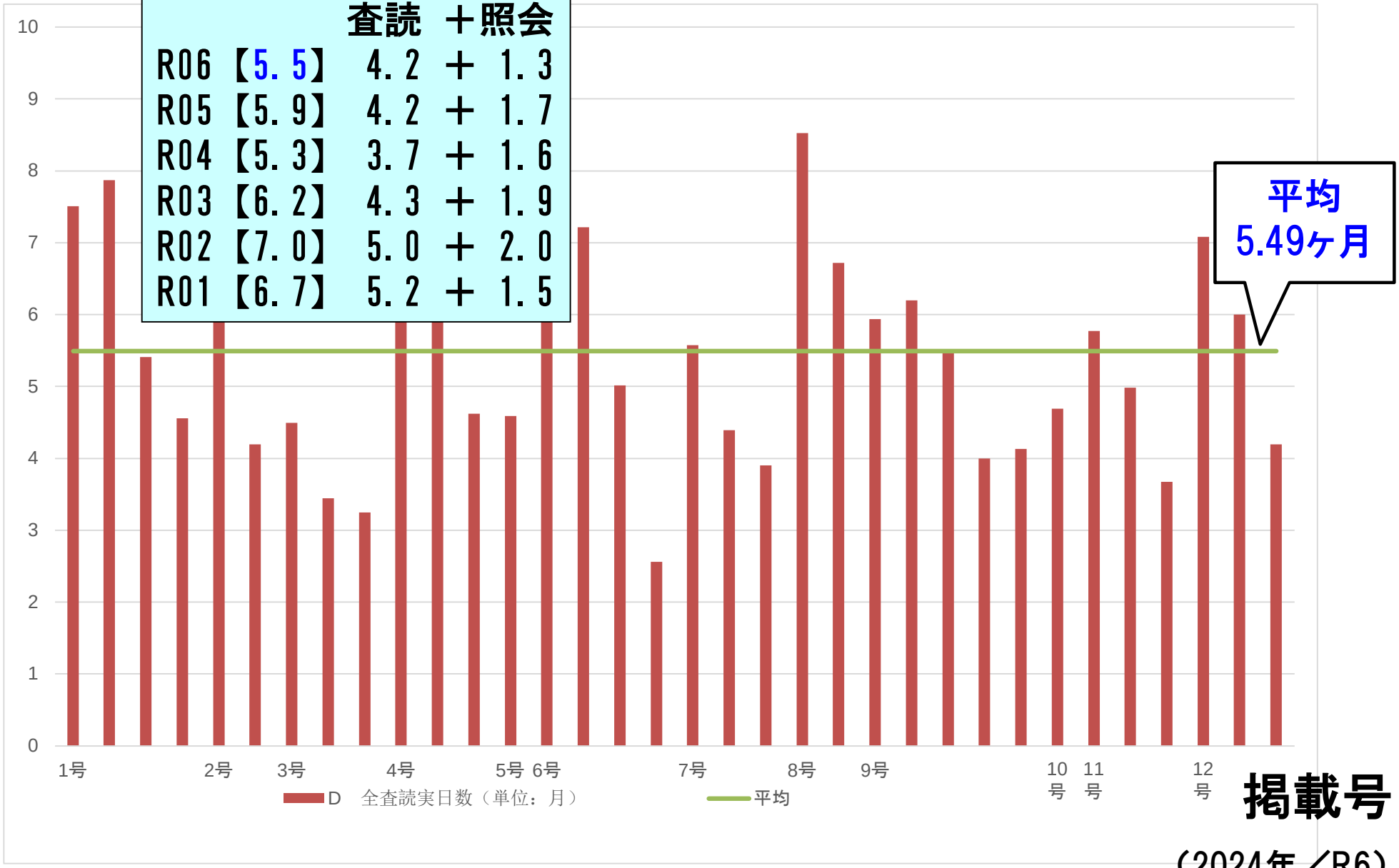
平均査読日数



電気学会産業応用部門論文委員会

共通英文論文誌（D部門投稿論文）
論文掲載判定までの所要月数

	査読	＋照会
R06【5.5】	4.2	＋ 1.3
R05【5.9】	4.2	＋ 1.7
R04【5.3】	3.7	＋ 1.6
R03【6.2】	4.3	＋ 1.9
R02【7.0】	5.0	＋ 2.0
R01【6.7】	5.2	＋ 1.5



（2024年／R6）

査読マニュアルについて

現時点での査読マニュアル

産業応用部門 和文論文誌 編修長
熱海 武憲 （千葉工大）

30　査読に関する規定について

査読作業に当たって入手した情報は，守秘義務の対象となります．下記条項をご確認頂き，当該義務を負う場合に限り査読作業を継続して下さるようお願い申し上げます．

電気学会規程「部門編修規程細目」（部門共通・規程1－1）第5条3項
『論文査読者は，投稿原稿等の内容を掲載前に外部に漏らしてはならず，また照会に際しては，投稿者に対して行き過ぎた研究指導やこれに類する行為を行ってはならない．』

査読作業は次の通りです

- 査読を依頼された論文の 原稿1ページ目 表示ボタンを押すと投稿原稿の1ページ目が閲覧できます．
- 査読を受諾していただける場合は，受諾 ボタンを押して下さい．
- 受諾後，査読を行う原稿の 原稿表示 ボタンを押すと，投稿原稿の全文が閲覧できます．

部門編修規程細目

（査読者）

第５条　論文等の査読は，論文委員会を通じて，論文および資料の場合は２名の査読者に，また研究開発レターとして投稿された場合は１名の査読者にそれぞれ委嘱してこれを実施する。

２．論文等の査読を担当する査読者名および査読内容は公表しない。

３．査読者は，論文等の内容を掲載前に外部に漏らしてはならず，また照会に際しては，投稿者に対して行き過ぎた研究指導やこれに類する行為を行ってはならない。

電気学会産業応用部門論文委員会

査読マニュアルの目的

- 目的
  - 論文査読の基準を明確にすること。
  - 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。

- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

32　部門誌論文・査読の基本的考え方

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく，読者である。
  - 投稿者は評価に耐えられる論文を作る。
  - 査読者は論文を早く、正しく処理する。
- 次の論文を出したくなるような査読をする。
  - 何でも掲載すればよいというのではない。
  - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力もなくなる。

33　査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性，創造性，有用性のいずれか１つが認められるか
  技術面だけでなく，考え方，応用上の問題点の指摘など，広い観点からの新規性，創造性，有用性の判断がポイント
- 明白な誤り，矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が，むすびで結論付けられているか
- 同一内容が発表されていないか

判定の基準

- 判定は４段階とし，以下の基準による。
  - ① エディトリアルな修正のみ：

    掲載(A判定)
  - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：

    条件付き掲載 (照会後掲載） （B判定)

  ※下記の電気学会の投稿手引きとは微妙に違うので注意

  判定B　条件付掲載（軽微な修正点はあるが投稿者に照会のうえ一部修正すれば掲載）。
  - ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：

    照会後判定(C判定)
  - ④ 論文の要件を具備していない：

    返送(D判定)

- 照会後判定(C)は初回査読のみ選択可能

35　照会文の書き方(A，B，C判定）

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
- ② 推奨修正項目(Suggested change),
- ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)

に分け，判定の根拠を明確に記載する。

- ①の必須項目のある論文は，照会後判定(C)とする。
- ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会後掲載(B)とする。
- ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

１回目の査読でＡ判定をつける場合の判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。

- 新規性，創造性，有用性（研究開発レターでは創意性，新規性）のどれが認められるかを（複数でも良い），明確に記載する。

返送文の書き方

- 理由を具体的に，明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上，新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性，創造性，有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

（例）

- 既に発表されている論文＊＊との違い，優位性が無い，あるいは，同一内容である。
- 論文の目的･主張･効果などが，論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず，新規性，創造性，有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の＊＊部分に誤りがある。

その他

- 掲載決定論文の内容の変更は，原則として誤字，脱字，フォントの不一致など，editorialな修正を除いて一切認められない。掲載決定後，最終原稿で意図的に内容を追加したことが明らかになった場合には，掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は，常に改善してゆきます。なお査読マニュアルは産業応用部門論文委員会のページ http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/からリンクできます。

参考：部門ホームページ（ http://www.iee.jp/ias/ ）

論文委員意見に対する回答

和文誌編修長 熱海 武憲（千葉工業大学）
英文誌編修長 藤本 康孝（横浜国立大学）
Ｄ４主査　　西村 和則（名古屋大学）

事前にいただいた御意見

査読について： 3件
ご意見・ご質問を頂戴しました。

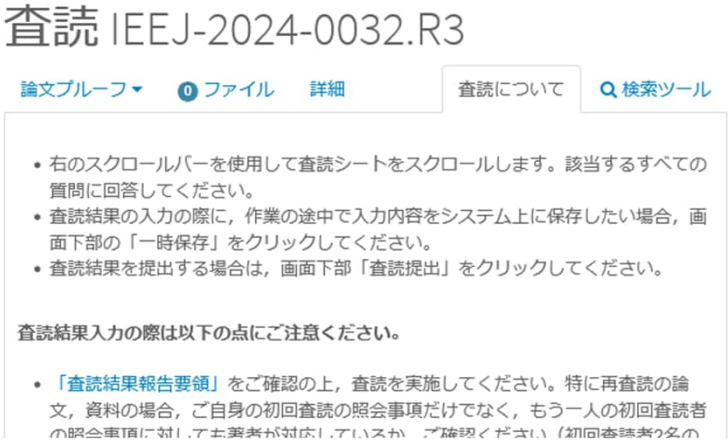
ありがとうございました。

R06: 3件, R05: 5件, R04: 5件, R03: 10件,
R02: 2件, R01: 5件, H30: 10件, H29: 4件,
H28: 4件,H27: 10件, H26: 11件, H25:12件,
H24: 11件, H23: ３件

41 【ご質問】S1Mの査読メニューについて

(1) S1Mの査読メニューの中に査読要領の最新版をリンクで追加してほしいです。幹事マニュアルは幹事メニューのなかにリンクが張ってあるので、同じように対応いただければと思います。

査読者の査読結果登録画面には，
査読結果報告要領へのリンクが
すでに貼られております。



なお，査読メニューについては，実際に査読を依頼されていなくても，幹事の「査読者リスト」にリストアップされたところでメニューが自動生成されてしまう仕様のため，あえてこちらに査読結果報告要領やマニュアルは掲載しておりません。

42【ご質問】S1Mでの査読状況可視化について

(2) 旧査読システムでは査読の処理状況が可視化されていましたが，Scholar Oneでは不可視のようです。可視化することは難しいでしょうか。

S1Mでは、旧査読システムのように、投稿者が査読処理の進捗状況（著者、事務局、編集長、主査、幹事、査読者）を把握できる設定にはなっておりません。

誠に申し訳ございませんが、現時点では電気学会としてこの点への対応は困難であると考えております。

43【ご質問】S1Mでの査読者情報について

（３）過去の査読者、その方の専門分野、などのリストが無いようでしたら、作成いただき、査読者選定の効率化に繋がればと思います。

いきなりシステムから連絡するのではなく、事前に承諾を得た方が、効率的な場合が少なくありません。

過去の査読者のうち、論文委員を務められている方については、旧査読システムからS1Mへのデータ移行を行っております。一方で、論文委員でない査読者の方に関しては、データの移行は行っておりません。そのため、該当する方の情報は旧システムにて検索いただく必要がございます。
また、ご指摘のとおり、S1Mに不慣れな査読者の方に対しては、システムから直接連絡するのではなく、事前に幹事の方からご連絡いただくほうが、査読依頼の効率化につながる場合が多いと考えられます。

おわりに

和文論文誌・英文論文誌ともに
魅力のある論文誌となりますよう
編修長・主査・副主査・幹事一同努めてまいります
論文委員の皆様方も引き続きご協力をお願いします。

これにて意見交換会を終了します

ありがとうございました